

# 第11回受賞 令和3年(2021年)

## 受賞テーマ

### 「大腸がんの効果的な内視鏡治療及び個別化医療の実現を志向した内視鏡AI診断支援医療機器の開発」

- <代表者> 浜本 隆二 (国立がん研究センター研究所医療AI研究開発分野 分野長)  
山田 真善 (国立がん研究センター中央病院内視鏡科 医員)  
斎藤 豊 (国立がん研究センター中央病院内視鏡科/内視鏡センター 科長/センター長)



第11回受賞研究テーマ『大腸がんの効果的な内視鏡治療及び個別化医療の実現を志向した内視鏡AI診断支援医療機器の開発』に関する研究成果は、我が国で発生率の高い大腸がんの発生初期における前がん病変発見率を高めるために、多数の内視鏡画像を人工知能(AI)へ学習させることで確度のより優れた検出アルゴリズムを開発したことにあります。受賞者らが開発したAIシステムは、PMDAから管理医療機器(クラスII)として承認され、欧州においても医療機器製品の基準となるCEマーク要件に適合しました。現在、より利用価値の高いマルチモダリティなリアルタイム内視鏡画像診断補助システムを目指して更なる開発を進められており、高度医療や個別改良の実現に大きく貢献することが期待されています。